

## 巻頭言

## 新型コロナウイルス感染症は伝染病



会長 山崎 學

本稿を書いている現在、日本列島は緊急事態宣言発令で自粛生活を余儀なくされている（国内感染者数 11,496 人、死者数 277 人、国外感染者数 2,385,386 人、死者 162,757 人、4月22日現在）。高齢者に属する小生は感染恐怖と戦い、同時にぶつけどころのない激しい怒りを抱きながら本稿を書いている。政府は、5連休中の接触を80%削減して新型コロナウイルス感染拡大を封じ込める作戦のようである。

新型コロナウイルス感染者第1号は、2019年11月17日に中国湖北省で発症したとされる。初動対応の遅れでいまや全世界で261万人以上の感染者が出て、さらにその10倍とも言われる自覚症状のない陽性患者が、社会生活のなかで感染を広げていると言われている。動物由来の感染源の指摘から始まり、現在中国科学院武漢ウイルス研究所からのウイルス漏れ疑惑について米政府が調査を実施している。人為的に遺伝子操作されたウイルスだとすると、話は厄介になってくる。はじめはインフルエンザより少し強い、ヒト-ヒト感染はない、などと能天気な説明をしていたWHO、それを真に受けていた厚労省の対策は後手後手にまわり、政権に大きな打撃を与えようとしている。

私が会長に就任してから、日本の精神科医療に対する偏見を変えようとWHOのセミナー等で3回講演する機会があったが、中国支配が進むWHOの姿を見て「これは駄目だ」と思った。2003年、香港衛生署長だったマーガレット・チャンはSARS対策を担当し、同年8月WHO事務局に転任して伝染病対策担当になった。2006年、韓国人のイ・ジョンウク事務局長が病死し、中国政府のなりふり構わない応援を受けて2007年にWHO事務局長に就任した。就任後、WHO職員に多くの中国人を採用したのは当然のことである。そして2017年、後任の事務局長に中国にとって使い勝手のよいエチオピア出身のテドロス保健相を就任させた。1970年、エチオピアは帝政が崩壊し、ソ連の支援を受けて社会主義独裁のメンギスツ政権が発足したが、内戦が続いていた。医学生だったテドロスは反政府左派ゲリラに身を投じ、中国や米国が支援する「エチオピア人民革命民主戦線」の幹部になって、1991年に政権交代を実現し、保健相、外相を務めた。WHO事務局長に就任したのはアフリカ票取りまとめと中国の支援によるものである。

中国の国際機関トップに対する執念には激しいものがあり、すでに国際連合食糧農業機関 (FAO)、国際民間航空機関 (ICAO)、国際電気通信連合 (ITU)、国際連合工業開発機関 (UNIDO) の事務局長の椅子を独占している。また、2018年には本国の意に添わなかった国際刑事警察機構 (ICPO) 総裁を務めていた孟宏偉を本国に召還逮捕して、収賄罪で禁固13年6カ月の実刑判決に処している。

1917年に中国北部で流行した呼吸器疾患に酷似したH1N1型インフルエンザはスペイン風邪(3年3期合計国内外感染者数23,804,673人、死者数388,727人)と呼ばれ、2002年11月16日中国広東省で発生したSARSコロナウイルスによる重症急性呼吸器症候群(SARS)(国内外感染者数8,439人、死者数812人)、2012年5月15日サウジアラビアで発生し、現地では終息していないMERSコロナウイルスによる中東呼吸器症候群(MERS)(国内外感染者数8,422人、死者数916人)と感染症の発生が相次いだ。そして、またしても中国由来のコロナウイルス感染症が世界の経済に大打撃を与える勢いになっているが、発生源の中国は終息宣言を出して医療物資を中心に援助外交をし、テドロスの助けを借りて頼かぶりするつもりのようである。

テドロス命名のCOVID-19と呼ぶのは止めよう。感染症には発生地責任を刻んで歴史を風化させないことが必要である。今回の新型コロナウイルス感染症は武漢コロナウイルス感染症と呼ぶのが正しい。また、私は1998年10月伝染病予防法から感染症予防法に呼称変更したのがいけないと思っている。伝染病という言葉がもつ響きは、国民にとって重い響きとなる。果たして「中国で伝染病が流行っている」と言ったら、春節、さっぽろ雪まつりで100万人規模の中国人を歓迎して迎え入れたであろうか。先人の知恵が詰まった言葉を変えるとロクなことがない。

(参考：三井美奈「WHOが露呈した中国国連外交の野望」正論2020年5月号)